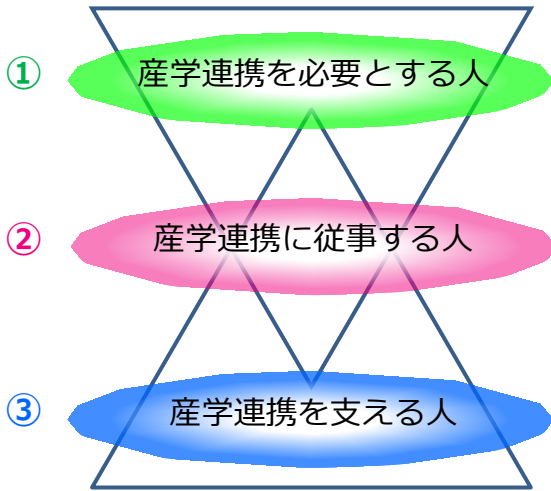


## ■会員イメージ



- ① 研究成果の実用化・具現化を望む研究者、新製品・新事業実現のために大学など基礎研究機関に研究成果
- ② や課題解決を求める民間企業や起業家、大学などのリソース担当教員、若手や関係省庁派遣のコーディネータ、民間のコンサルタントをされておられる方々
- ③ 行政、自治体、金融、ベンチャーキャピタル関連など

## ■会員特典

1. 学会誌が無料で手に入ります(年2回発行)。
2. 学会誌に投稿できます(正会員は無料、準会員は有料)。
3. 年次大会に学会員料金で参加できます。
4. 年次大会にて、発表することができます。
5. 年次大会で出版される講演予稿集を無料で入手できます。
6. 無料でニュースレターを受け取ることができます(年数回発行)。
7. 無料でメールニュースを受け取ることができます。
8. 主催あるいは関連する各種イベント(講演会、展示会、その他)に対して、学会の後援名義を求めることができます。
9. 主催あるいは関連する各種イベント(講演会、展示会、その他)をメールニュースから発信して、全国にアナウンスすることができます。
10. 主催あるいは関連する各種イベントに対する支援を学会に求めることができます(講師斡旋紹介、学会誌への掲載、ニュースレターへの掲載、メールニュースへの掲載など)。
11. 産学官連携に関するイベント情報や産学官連携に関する有益な情報をメーリングリスト([j-sip-mail@j-sip.org](mailto:j-sip-mail@j-sip.org))に自由に発信することができます。

## ■入会のご案内

産学連携学会ホームページでは、随時入会を受け付けております。また、郵送・FAXでも入会申込を受け付けております。詳細については、下記をご確認ください。  
<http://www.j-sip.org/pdf/entry05.pdf>

### ○会員種別

	種別	入会金	年会費	論文投稿料	版下料	総会議決権
正会員	個人	5,000円 (ただし学生は1,000円)	12,000円 (ただし学生は2,400円)	不要	不要	あり
	団体	10,000円	36,000円	不要	必要	あり
準会員	個人	2,000円	6,000円	必要	必要	なし
	団体	一口2,000円 (一口以上)	一口6,000円 (一口以上)	必要	必要	なし
賛助会員	個人	不要	一口24,000円 (一口以上)	必要	必要	なし
	団体	不要	一口60,000円 (一口以上)	必要	必要	なし
名誉会員	名誉	不要	0円	必要	必要	なし

### ○振込先

郵便貯金口座 番号：01750-4-116291  
 名称：特定非営利活動法人 産学連携学会  
 (トクテイヒエイリカツドウホウジン サンガクレンケイガクカイ)  
 ◆誠に申し訳ありませんが、振込手数料はご負担下さい。

## ■刊行物



学会論文誌



ニュースレター



書籍：産学連携学入門

### 特定非営利活動法人 産学連携学会 事務局

〒182-0024  
 東京都調布市布田2-50-2コーポ栄101  
 (株)キャンパスクリエイト調布プラチ内  
 TEL:050-5539-6604 FAX:042-441-1809  
 E-mail:[j-sangaku@j-sip.org](mailto:j-sangaku@j-sip.org)  
 URL:<http://j-sip.org/>

## 特定非営利活動法人

# 産学連携学会

Japan Society for Intellectual Production

プロメテウスの火  
 人類は火として知恵を授かり、  
 しかし未来を知る能力を失った。  
 代わりに得たのは、希望であった。  
 今、私たちは破壊と創造の火を燃やす。

## ■活動概要

### 地域産学連携活動の総合的支援

地域経済の活性化をはかる諸活動の総合的な支援。各地域の特色を生かし各地域の連携機関・組織を中核に、全国的な支援活動を総合的に行います。

- 人材、資金、情報、さまざまなノウハウなど振興策の諸側面
- 地域連携活動を行う人々と組織の支援
- これらの活動を補完し、さらに高度化・拡大し地域活性化に寄与
- 具体的には、
  - 情報：産学連携のスキーム
  - 人材：各種連携事業専門家の紹介・派遣研修交流活動の支援
  - 資金：競争的研究助成金などの獲得支援
  - 長期的なビジョンに立った地域産業の育成とマーケット拡大の施策構築

### 人材育成・産学連携業務の専門職化

産学連携の推進には、これに係わる専門的な人材が不可欠です。本活動では、この専門職領域を確立し、その人材の確保と技能の向上を狙いとしています。研究者の育成と系統的な教育実施への展開をいたします。

- 計画的・継続的人材育成ノスキルアップ(研修事業)
- 認定資格制度構築
- 産学連携諸機関の全国ネットワーク形成
- 産学連携に関する情報交換・相互啓発、共通課題の抽出と解決
- 技術移転事例などに関する成功事例・失敗事例の集蓄積と分析、共通資産としての活用

### 産学連携学の確立

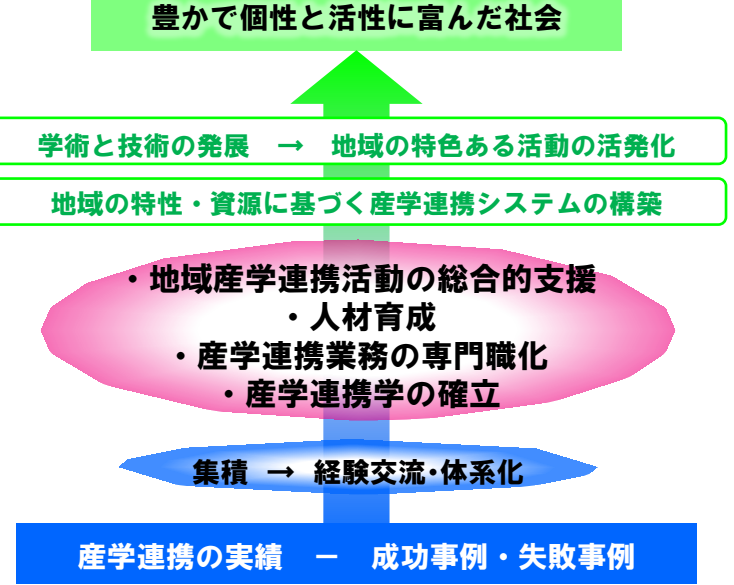
「産」と「学」とに象徴される技術開発・研究開発の様々な役割と異なる機能を明らかにします。これらの連携によるイノベーションの推進と新産業創成における、諸側面の学術的検討と普遍化を目的とする産学連携学の確立を目指します。さらに、これを対象とする研究者の育成と系統的な教育実施への展開をいたします。

- 産学連携に係わる各種課題の学術的調査・分析・評価
- 年次大会、支部大会・研究会の開催
- 学会誌の発行
- 各種セミナー、シンポジウムの開催
- 人材育成システムの調査研究
- 産学連携の制度などに関する政策提言
- 産学連携に関する学術書・啓発的著作などの発行

## 特定非営利活動法人 産学連携学会

産学連携に関する諸課題を専門的実践者の立場から取り扱うべく、産学官の学識経験者や実務家などが広く交流し、相互に啓発、支援しあう場

産学連携に関心を有する全ての方々を対象とし、産学連携に従事する際の力量の涵養、地域産学連携活動の総合的支援に関する事業を遂行するとともに産学連携業務の専門職化を促進する。これらの活動を通じて、産学連携学の確立及び産学連携自体を発展させることにより、我が国の学術や技術の発展を促進し、もって地域が特色ある活動を活発に行う豊かで個性と活性に富んだ社会をつくり出すことに寄与することを目的とする。



### 事業活動①：人材養成・成果公開

#### 【シンポジウム】

産学連携のもとづく新しい産学連携活動を提起し、シンポジウムとそこでの議論をふまえて社会的に訴求する。実務に裏付けられた学問体系、学問体系に裏付けられた実務を同時に追求する。分かりやすい議論と地域における開催を推進する。

#### 【講習会・講演会】

産学連携学を中核とした産学連携体制の構築、マネジメントの論理・実践による手法など地方における新しい産学連携構築に向けた講習会や講演会などを行う。

## ■分野

「産」と「学」は異なった目的と歴史を持っています。この二つを連携し融合するために考えなければならない問題と、それらに関する実践例が数多くあります。以下にその項目といくつかの具体的な例を掲げます。

### 1. 人材育成

- MOT ●産学連携実務者育成手法等 ●学生の教育インターンシップ等

### 2. 外部機関等とのアライアンス

- 異セクター間の連携自治体連携、包括協定 ●同セクター間の連携大学間連携等 ●多数組織間の連携経済団体等との連携、クラスター形成 ●外部連携に際しての内部組織体制の構築利益相反、知財管理、守秘義務

### 3. 知的財産

- 職務発明 ●出願戦略パテントポートフォリオ構築等 ●技術移転手法・事例 ●知財価値評価

### 4. リエゾン活動

- コーディネート手法 ●コーディネートツールデータベース、シーズマーケット等 ●コーディネータの役割・育成 ●リエゾン組織

### 5. 産学官連携プロジェクト創出

- プロジェクト構築事例 ●プロジェクトの評価分析 ●成果の事業化事例、創出モデル、人材確保 ●市場開拓マーケティング等

### 6. 大学発ベンチャー

### 7. 産学官連携政策

- 産学連携促進政策 ●科学技術政策 ●産業振興政策

### 8. 国際展開

- 連携プロジェクトの国際展開事例、手法 ●海外に対する技術移転事例、手法 ●人材育成の国際連携 ●海外団体等とのアライアンス ●海外の産学連携 ●海外政策事例

### 9. 地域連携

- 特色ある地域連携プロジェクト事例、手法 ●連携における地域性モデル、分析 ●地域産学連携人材育成 ●地域団体等とのアライアンス ●地域経済影響評価

### 10. 産学連携論

- 将来展望 ●産学連携の包括的な分析

### 事業活動②：地方における産学連携活動の活性化

#### 【地域産学官連携活動】

地域の産学連携機関と連携した講演会、討論会を開催し、地域産学連携関係者との意見交換を通じて地方に質の高い産学連携の推進を支援する。

#### 【支部設立活動】

地域大学や中小企業との学術交流推進に向けた拠点作りを推進する。支部を中核とした大学の産学連携の共同活動、広域情報網を活用した知的財産活用体制の構築など産学連携活動様式の変革を支援する。